

センター長挨拶（2013.4.3）

東日本大震災から2年が経ちました。あの震災は私たちから大切なものを奪っていきました。改めまして大震災で尊い命を失われました皆様に、心からご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災されました皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

東日本大震災から3か月たった、2011年6月に宮城教育大学の中に、教育復興支援センターが設立されました。教育復興支援センターにおける業務はいろいろありますが、その中の一番大きな活動は、ボランティアの大学生による、休み期間（ほとんどが夏休みですが、一部冬休みや春休みの活動もあります）の被災地の小学生や中学生への学習支援です。宮城教育大学の学生をはじめとして、全国の大学から学生の皆さんが、支援に協力してくれています。昨年の夏休み北は北海道教育大学から南は福岡教育大学まで、また私立大学も含めて13の大学から学生の皆さんが集まってくれました。

ボランティアの多くは夏休みなどの休み期間に子どもたちが、地域の学校に集まって、大学生が勉強を教えるという活動が多いです。ボランティアに参加してくれた学生をみていると、活動のあとは、何となく自信が出てきて、キラキラと輝いているようにみえます。一段と成長した姿が見受けられます。宮城教育大学では3年生に教育実習がありますが、大学の1年生や2年生の時に、子ども達に教えるということを経験していると、実習にも役に立つと

ということもあります。とにかく夏休みに誰でもできる、3日ないしは4日間のボランティアです。その費用も自己負担はありません。

どうか、宮城教育大学の学生として、被災地の子供たちのために、協力していただきたいと思います。東日本大震災を風化させないようにみんなで頑張りましょう！